

HUMOR

武蔵野美術大学美術資料図書館
民俗資料ギャラリー展示7

「ユーモア」

日時

09.11.24 (tue) – 28 (sat)

9:00 am – 5:00 pm

会場

民俗資料室ギャラリー
13号館2階

主催：武蔵野美術大学美術資料図書館

企画協力：EDS竹デザイン・プロジェクト

学生プロジェクトチーム

写真協力：望月ひかる（本学映像学科1年）



古きものから新しき視点を

HUMORというこの展示は、昔実用されていた民具という「古きもの」と、民具についての知識がほとんどない学生の「新しき視点」が巡り合ったときに生まれる「おもしろさ」や「ユーモア」を、展示の中で実際にふれ、感覚的な部分を刺激し、写真をもちて新たな視点を提案しています。見る人が様々なかたちで楽しんでもらえるような方法をとった展示となっています。

そういった新しい視点を提案した今回の展示の中で、見る人それぞれが感じたことやひらめきを、生活の中や制作などの身近な場面のどこかで繋げていくひとつの「手がかり」になればと思います。また、改めて民具にみる古きものを見直すことによって、私たち日本人の暮らしの知恵や生活を見直すことの「きっかけ」となればと願っています。

学生プロジェクトチーム

開催にあたって

本学の美術資料図書館民俗資料室のコレクションのなかには約3000点の竹の民具を所蔵しており、これまでに「くらしの造形3たけ」展(1992年)などで紹介してきました。一方、本学では2007年から2年半にわたり文部科学省の「現代GP」事業の採択を受けて、「EDS竹デザイン・プロジェクト」が、デザインの視点から竹の造形に取り組みました。参加学生たちは、その機会に改めて本学の竹の民具コレクションにふれて、先人の蓄積からおおいに刺激を受けました。その新鮮な感動を手がかりに試みたのが今回の小展示です。民俗資料から新しい造形の視点が獲得できる機会となれば幸いです。

美術資料図書館館長 神野善治

自然素材による民具は、とてつもなく長い期間をかけて生活の場で記述されてきた数理概念である、と気づいたのは、R.B.フラーが彼の学生から贈られたセバタクロー(東南アジアの伝統的な蹴球)に二十面体構造を発見したことを知ったからです。竹のザルもカゴも、私たちの身体機能から外化した「かたち」でありながら、その編み目の形態には西欧の自然科学とはちがった、自然の形象が刻印され、人と生態系を直結する「野生の造形」とでも呼ぶうる世界観を示してくれます。大地に根ざして育った「竹」による民具には、人の生命を維持する循環器官がかつて動物原形に変化する前の、身体の中かの植物系としての自然の記憶が息づいているかのように思えます。今回の展示では、竹の媒介による人と自然の親和的なデザインを学生たちがどう直観したか、という成果に大いに期待を寄せています。

基礎デザイン学科教授 板東孝明

武蔵野美術大学美術資料図書館
民俗資料ギャラリー展示7

H U M O R

日時
09.11.24 (Tue) - 28 (Sat)
9:00 am - 5:00 pm

会場
民俗資料室ギャラリー
13号館 2階

主催: 武蔵野美術大学美術資料図書館
企画協力: EDS 竹デザイン・プロジェクト
学生プロジェクトチーム
写真協力: 望月ひかる (本学映像科1年)

お問い合わせ
武蔵野美術大学美術資料図書館民俗資料室
tel: 042-342-6006
<http://www.musabi.ac.jp/folkart/>

交通

- JR中央線国分寺駅乗換、
西武国分寺線「鷹の台」下車徒歩約20分
- JR中央線国分寺駅北口下車徒歩3分、
西武バス国分寺駅北入口発
「武蔵野美術大学」または「小平営業所」行、
武蔵野美術大学下車

